

認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成22年3月
富山県富山市

．ポイント

計画期間；平成19年2月～平成24年3月(5年2ヶ月)

1．概況

平成19年2月の第一号認定後、「賑わい交流館」(愛称：フォルツァ総曲輪)、「賑わい横丁」、グランドプラザ整備事業、総曲輪通り南地区第一種市街地再開発事業(愛称：総曲輪フェリオ)など、新たな賑わい拠点が創出された。さらに中央通りf地区第一種市街地再開発事業や西町東南地区第一種市街地再開発事業が都市計画決定されるなど、再開発事業も動き出してきた。

一方、旧大和富山跡地の西町南地区第一種市街地再開発事業において、当初の事業計画から大幅に構想が変更になり、事業計画の作成に着手できる見通しが立たなくなったため、平成20年度の市補助金を減額する措置を取らざるを得なかった。また、旧西武富山跡地の活用についても、新たな投資をする動きが見えてこない。さらには、総曲輪通りのアーケードに面した老舗の服飾系の2店舗が閉店するなど、昨今の経済情勢を反映し、非常に厳しい局面にある。

このような状況の下、地域公共交通活性化再生法に基づく、「軌道運送高度化実施計画」の認定を受け、平成21年12月23日、上下分離方式で軌道の整備を進めていた「市内電車環状線」が開業した。富山ライトレールと同型で、黒、銀、白色の3両の低床車両(愛称：セントラム(CENTRAM))が、10分間隔で運行されている。開業イベントには大勢の家族連れや県内外の鉄道ファンで賑わい、約4,400人が無料試乗を体験した。約1.3km離れた富山駅と中心商業地区の回遊性の向上やアクセス強化が図られ、新たな賑わいの創出に大きなインパクトを与えるものとして期待しているところである。

郊外から中心市街地への来街者の増加を図る「おでかけバス事業」や、中心市街地の回遊性を図る「路面電車環状線化事業」「コミュニティバス事業」などの公共交通の利便性の向上に資する事業によって、中心商業地区に人を呼び込む仕組みは概ねでき上がったことから、今後、旧西武富山店跡地の「総曲輪再開発ビル再生事業」や旧大和富山店跡地の「西町南地区第一種市街地再開発事業」などの、賑わい拠点の創出や街なか居住の増加に寄与する事業を早急に進める必要がある。

なお、基本計画の掲載事業の現時点の進捗状況であるが、総事業27事業のうち、25事業が完了・実施中、2事業が未着手となっている。(未着手事業：総曲輪再開発ビル再生事業、ICカード活用による商業等活性化事業(社会実験中))

平成20年度にフォローアップ報告をした、中心商業地区の歩行者通行量(日曜日)や中心市街地の居住人口の数値目標については、「市内電車環状線」の開業や、「西町南地区第一種市街地再開発事業」において、地元金融機関の本店移転や市立図書館・ガラス美術館が入居することが決定したことなどで、徐々に効果が現れると考えており、その他の基本計画に掲載された事業との相乗効果も生まれ、達成が可能であると考えている。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値 (年)	目標値 (H23fy)	最新値 (H20fy)	見通し
公共交通の活性化により車に頼らずに暮らせる中心市街地の形成	路面電車市内線一日平均乗車人数	10,016人 (H17)	13,000人	9,981人	
魅力と活力を創出する富山市の「顔」にふさわしい中心市街地の形成	中心商業地区の歩行者通行量(日曜日)	24,932人 (H18)	32,000人	平成23年度 最終報告	
魅力ある都心ライフが楽しめる中心市街地の形成	中心市街地の居住人口	24,099人 (H18)	26,500人	平成23年度 最終報告	

注) 取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
 取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
 取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 達成状況の評価及び見通しの理由

平成20年度の路面電車市内線の日平均乗車人数については、平成21年12月23日に路面電車環状線化事業が完了し、富山駅周辺と中心商業地区の回遊性の向上・アクセス強化が図られ、沿線の商店街の独自の活動(大手モール商店街では越中大手市場の開催、千石町商店街では商店街マップの作成など)も活発となり、平成22年1月末現在、一日平均1,386人が乗車しているが、このままでは目標達成が見込まれないので、路面電車の利用促進の事業等を推進する。

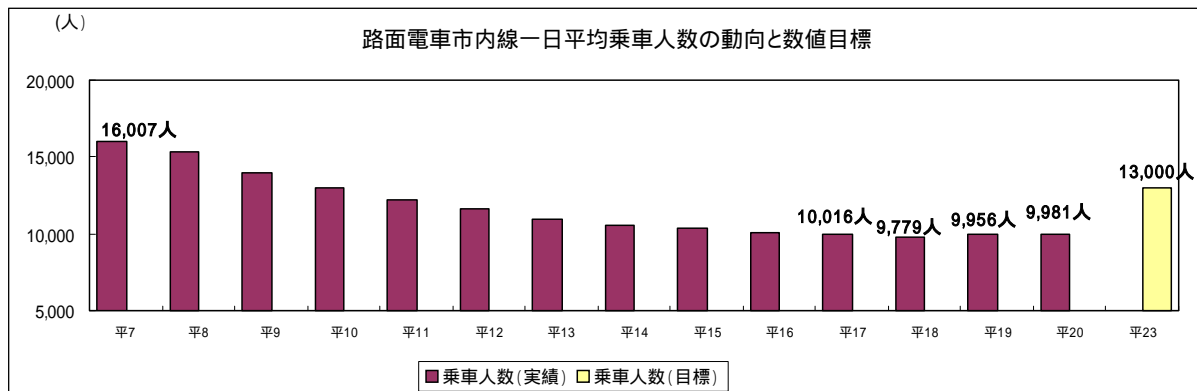
4. 今後の対策

今後も基本計画に掲載された事業を着実に推進するとともに、再開発事業において準備組合の設立の動きが見られることから、活性化に有効であると判断できるものは基本計画に掲載し、支援していく。

また、基本計画に掲載していないが活性化に効果的な事業も、市民、商業者、交通事業者、市内有力企業、及び県や(株)まちづくりとやまの協力・協賛を得て、積極的に実施していく。(平成21年12月2日~平成22年1月15日の「エコリンク事業」、平成21年度~平成23年度の3年間限定の「中心商店街出店促進事業」)

・目標「公共交通の活性化により車に頼らずに暮らせる中心市街地の形成」

「路面電車市内線一日平均乗車人数」 目標設定の考え方 基本計画 P39～P40 参照)



調査月：7月

調査主体：富山地方鉄道(株)

調査対象：1系統（南富山駅前～富山駅前）2系統（南富山駅前～大学前）の4月～3月の乗車人数

年 (調査月)	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23 (実績 数値)	H23 (目標 数値)
路面電車市内線一日 平均乗車人数	10,016	9,779	9,956	9,981				13,000

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

賑わい交流館整備運営事業（株まちづくりとやま）

事業完了時期	【済】平成19年2月完成（整備）
	【実施中】平成19年2月～（運営）
事業概要	空き店舗を活用し、映画館を始めとし、市民の文化・教養・娯楽の拠点を整備運営する事業である。
事業効果又は進捗状況	シネマホールでは県内で唯一、ミニシアター系の映画を1日5回上映し、ライブホールでは音楽ライブが開催されている。休日のオープン時からの入館者数は1日平均約100人となっている。

賑わい横丁整備運営事業（株まちづくりとやま）

事業完了時期	【済】平成19年3月完成（整備）
	【実施中】平成19年3月～（運営）
事業概要	市民からのニーズが高く、中心市街地に不足しているとされる飲食店を整備運営する事業である。
事業効果又は進捗状況	ラーメン、そば、焼肉、寿司居酒屋、創作料理などの飲食店を展開しており、休日のオープン時からの来店者数は約220人となっている。

グランドプラザ整備事業（富山市）

事業完了時期	【済】平成 19 年度
事業概要	2 つの再開発ビルの間に位置し、一年を通して使用可能な全天候型ガラス屋根の広場を整備する事業である。
事業効果又は進捗状況	平成 19 年 9 月に完成した。毎週土日、施設使用の予約が入っており、様々なイベントが開催されている。

総曲輪通り南地区第一種市街地再開発事業（総曲輪通り南地区市街地再開発組合）

事業完了時期	【済】平成 19 年度
事業概要	キーテナントとして地元の百貨店である株大和富山店が出店し、地権者の専門店も多く出店する再開発事業である。
事業効果又は進捗状況	平成 19 年 9 月に完成した。グランドプラザ、グランドパーキング（平成 17 年 4 月完成の駐車場）と一体となって賑わいの拠点となっている。賑わいの創出に寄与し、周辺の歩行者通行量は増加した。

路面電車環状線化事業（富山市）

事業完了時期	【済】平成 21 年度
事業概要	中心市街地を運行している路面電車市内線の軌道を延伸、環状化し、富山駅周辺地区と中心商業地区の回遊性向上を図ることにより、賑わいの創出と公共交通の利便性向上に寄与する事業である。
事業効果又は進捗状況	平成 21 年 12 月 23 日に開業した。平成 22 年 1 月末現在、一日平均 1,386 人が乗車している。平成 22 年 3 月 14 日に IC カード「ecomyca(エコマイカ)」を導入したところである。IC カードを利用した場合、1 乗車 170 円（通常 200 円）となり、より一層の利用者の増加を図る。

富山城址公園整備事業（富山市）

事業完了時期	【未】平成 27 年度
事業概要	中心市街地の中央に位置し、多くの市民や来街者の憩いの場となる公園を整備する事業である。
事業効果又は進捗状況	路面電車環状線化事業にあわせて南西部広場の整備が平成 21 年 11 月に完了した。また西側芝生広場の芝張及び園路整備、「歴史・文化ゾーン」の埋文調査、及び庭園整備に着手した。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

1日平均乗車人数は、平成18年度で大きく減少したものの、平成19年度から20年度にかけて、わずかではあるが増加している。

主要事業のうち、賑わい拠点の創出にかかる事業はおおむね完成し、順調に運営している。路面電車環状線化事業の完成によって、それぞれの事業との相乗効果が大きく発揮され则认为しており、路面電車を利用した来街者の増加も期待できることから、数値目標は達成できると考えている。

今後の対策としてICカードの活用があげられる。路面電車環状線の開業時までにはICカードの導入が間に合わなかったが、平成22年3月14日に導入したところである。運行主体である富山地方鉄道(株)発行のICカード「ecomyca(エコマイカ)」は、富山ライトレール(株)発行のICカード「PASSCA(パスカ)」と互換性を持ち、相互乗り入れが可能であり、両社の路面電車の利用者の増加が期待できる。さらに平成22年度から、百貨店や中心商店街の加盟店で2,000円以上の買物をした際、当日乗車履歴のあるICカードにポイントを付与する事業を開始する予定である。(現在は富山ライトレール(株)のパスカだけで社会実験を実施している。)

また、市内のホテルや旅館に宿泊した外国人旅行者に、環状線と富山ライトレールの共通の運賃無料券を、国内旅行者には半額券を配布する事業を平成22年1月から開始しており、市内外の利用者の増加を図っていく。